

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

赤十字

12

DECEMBER 2020 NO.967

NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS
<http://www.jrc.or.jp>

令和2年12月1日(毎月1日発行)
赤十字新聞 第967号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可



わたしも赤十字

寄付の協力者

園児：(左から) かなこちゃん・まいちゃん・ころちゃん・まさきくん・りゅうせいくん・
けいくん・るいくん・みなちゃん・ここみちゃん・かのちゃん

練馬白菊幼稚園の園児 【p.5でご紹介】

特集

天皇皇后両陛下、 初のオンラインご視察

人間を救うのは、人間だ。

   YouTube

赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 TEL: 03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

天皇皇后両陛下、初のオンラインご視察

日本赤十字社医療センター等
行幸啓(オンライン)



天皇皇后両陛下はモニター越しに病院を視察され、全国の医療スタッフの言葉をお聞きになりました

天皇皇后両陛下は、11月18日、インターネットで赤坂御所と日本赤十字社医療センター(東京)や各地の赤十字病院をつないだオンラインによる視察をなされ、新型コロナウイルス感染症に最前線で立ち向かう医療従事者からの報告をお受けになりました。この新しい取り組みは、両陛下から、全国91の赤十字病院を代表して東京・北海道・福島・沖縄の医療従事者に対して、オンラインで励ましのお言葉を掛けていただく、初めての機会となりました。

両陛下、新型コロナウイルスとたたかう医療従事者とご懇談

天皇皇后両陛下は今年5月の日赤によるご進講の折に、新型コロナウイルス感染症に向きあう医療従事者に対し、励ましのお言葉を述べられました。その際に、両陛下が現場にいる医療従事者との直接の対話を望んでおられると拝察し、関係各所との相談を重ねた結果、オンラインによる初のご視察(行幸啓)が実現いたしました。

今回、赤坂御所からインターネットを経由してつながったのは、全国4つの赤十字病院。両陛下は日本赤十字社医療センター(東京都)、北見赤十字病院(北海道)、福島赤十字病院(福島県)、沖縄赤十字病院(沖縄県)を視察され、各地の職員と懇談されました。

日本赤十字社 大塚義治社長からの概要説明の後、各病院の院長はじめ関係者が説明を差し上げました。両陛下は、途中メモを取られるなどしてお聞きになり、医療の現場や各地域の状況などについて質問をされました。

天皇陛下からは、医療従事者への感謝と共に、「大変なことも多いかと思いますが、お体に気をつけて従事していただければと思います」とねぎらいのお言葉をいただき、日本赤十字社名誉総裁を務められる皇后陛下からは、「皆様力が尽くされていることに敬意を表します」とのお言葉をいただきました。

オンラインによる懇談に参加した福島赤十字病院の渡部洋一院長は、「両陛下の表情や深くうなずかれる様子から、私たちに寄り添ってくださるお気持ちを感じました」と語り、沖縄赤十字病院の大嶺靖院長は「時にお二人で顔を見合わせ、ご相談されながらお声掛けしていただきましたので、こちらも温かい気持ちになりました」と感想を述べました。



両陛下は多くの資料を手もとに置かれ、具体的な質問を重ねられました

新型コロナウイルスに関連する日赤の活動を動画でご覧いただけます。詳しくはこちら ▶



両陛下へのご報告内容

東京 日本赤十字社医療センター

感染症対応の事例、疲弊する職員の心のケアなどをご説明

全国で最も多くの感染者数を記録している東京都。都内で治療の最前線にいる日赤医療センターの取り組みを、今回のご視察用に撮影・編集した動画を使用してご報告しました。

動画では本間之夫院長の案内で院内の各所を回り、担当職員の声を交えて感染症対策の具体的な内容を説明。これまでの振り返りとして、感染拡大がピークとなった4、5月の現場の緊張感、不安を抱えながらも新型コロナウイルスの感染患者の治療に取り組んだ病院職員たちの苦労をお伝えすると、両陛下はその事実を深く受け止められ、動画の視聴後に職員に対して質問を重ねられました。

とくに、心身ともに疲弊している職員向けの相談窓口を院内に設置したことに関心を示され、皇后陛下から「(心のケアが必要になるのは)どのような原因があるのでしょうか」などの質問をいただきました。

動画の中で、重症患者の治療を行う救急集中治療室(EICU)感染症対策ユニットで使用されるECMO(エクモ)についても説明したところ、天皇陛下はECMOの技術的な質問もされました。視察を終えて、本間院長は「天皇陛下から、患者が増えていることをどのように考えますか、また、医療の現場はどのような状況ですか、と聞かれ、そういったご質問のお言葉から、国民全体のことを常に心配されているお気持ちが十分に伝わってまいりました。また、私たち赤十字職員に対してだけでなく、全ての医療従事者に対してご心配や感謝のお気持ちを持たれていることも伝わってまいりました」と語りました。



インターネット経由で赤坂御所とつながった画面から、両陛下のお言葉をいただく本間院長(左)と日赤医療センター職員



重症呼吸不全時に使用するECMOの説明をする林宗博 救急科部長

北海道 北見赤十字病院

障害者支援施設に医療チームを派遣

北見赤十字病院は、北海道内の障害者支援施設で判明した職員、入所者への感染に対し、4月29日に小清水赤十字病院、置戸赤十字病院と結成した医療チームを派遣。交代で泊まり込み、33日間24時間体制で治療にあたり、施設職員と連携しながら施設内の感染拡大を抑え込みま



荒川院長(左)と北見赤十字病院職員



環境の変化が苦手な入所者のため、ふだんの生活に近い形で療養できるように治療を行った

した。その報告に対し陛下からは「どんな苦労がありましたか」などの具体的な質問をいただきました。荒川穂二院長は「陛下の事情をお知りになりたいというお気持ちに、職員一同感動しました。北海道の現状を直接お伝えすることができて非常に有意義でした」と語りました。

福島 福島赤十字病院

災害救護の経験を胸に、横浜港クルーズ船に出動

今年2月、横浜港に停泊中のクルーズ船内でクラスターが発生。福島赤十字病院は他の赤十字病院とも連携し、DMATと救護班を出動させました。陛下からは「福島は東日本大震災の原発事故でも本当に苦労されたと思います」とのお言葉をいただき、渡部洋一院長は「未知のウ



渡部院長(左)と福島赤十字病院職員



クルーズ船内で医療救護活動を行う渡部院長

イルスも「災害」です。東日本大震災の原発事故により救護班として多くの苦悩を抱えていた当時のことを思い出しました」と、院長自身の体験を交えてご報告。両陛下から船内という特殊な環境下で不安や葛藤を抱えて職務を全うしたことに対して、深いご理解をいただきました。

沖縄 沖縄赤十字病院

院内感染を乗り越え、一丸となって危機回避

沖縄赤十字病院では県内で感染が急拡大する中、7月30日に院内感染が判明。院内感染対策本部を立ち上げ、発熱患者のテント診療やドライブスルー方式のPCR検査など院外の診療方法を工夫すると共に、職員の健康管理や防護服の着脱など感染症対策を徹底。看護係長の臼井聖



大嶺院長(左)と沖縄赤十字病院職員



ドライブスルー方式でPCR検査を実施した

子さんは、「災害モードに切り替えた職員の頑張り、専門家の派遣などの日赤グループの支援が大きな力になりました」とご報告。陛下から「くれぐれもお体に気を付けて医療に従事してください」とのお言葉を受け、大嶺院長は「頑張らなくては、と強い気持ちが湧きました」と語りました。

TOPICS

NHK 海外たすけあい 「国境を越える感染症」

キャンペーン期間:12月1日(火)～25日(金)

助けあわなければ、感染症から世界は守れない。

毎年、日赤とNHKが共同で行っている「NHK 海外たすけあい」キャンペーン。今年は感染症をテーマに支援を呼びかけます。新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界中に広がりました。今こそ、世界中の人々が団結し、感染拡大を食い止めるために行動する必要があります。

日赤は長年にわたり、衛生環境の整っていない難民キャンプや災害地域で、地道な保健衛生事業を行ってきました。今、あらためてこれらの活動の重要性が増しています。日赤が海外で展開する活動は「NHK 海外たすけあい」キャンペーンで寄せられた皆さまの寄付で実現しています。



詳しくはキャンペーン
特設サイトをご覧ください▶

日赤 海外たすけあい

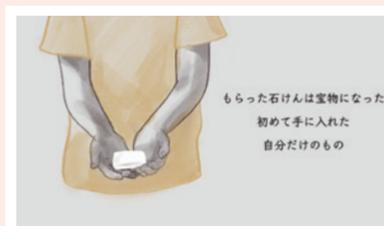
検索



キャンペーン動画

リトルヒーローズ Little Heroes 世界を救う小さな手

今回のキャンペーンに合わせ、あらためて「手洗い」の大切さを伝える動画を制作しました。難民キャンプや貧しい村で、手洗いを知った子供たちは「1個の石けんが宝物。そして手洗いは世界を救う」と大人たちを巻き込んでいく短編作品です。コロナ禍の世界で命を守るために、シンプルだけれど大切なメッセージを発信しています。(アニメーション作品/2分8秒)



日赤×NHK 番組企画

今年の「海外たすけあい」特別番組では、91万人のシリア難民が暮らす難民キャンプ、多発する自然災害と慢性的な貧困が問題となっているルワンダで実践する感染症予防の活動を、日赤職員がレポートします。

Lebanon Report



日本赤十字社
中東地域首席代表
五十嵐真希



感染症からシリア難民を守る 地道で、大切な、衛生支援

2011年のシリア紛争をきっかけに、レバノンには現在も91万人のシリア難民が暮らしています。私が現地で訪れる難民キャンプの住居はトタン屋根とプラスチックシートで囲われただけの簡素なもので、夏はひどい暑さ、冬は極寒の中で暮らし、生活に必要な水くみ場には水道設備はなく、簡易トイレの衛生環境も良いとは言えません。新型コロナウイルス感染症は、シリア難民にとっても生命を脅かす問題ですが、その上さらに感染拡大の影響で難民が手に入れたわずかな仕事さえも奪われてしまい、過酷な状況が続いています。日赤は感染症からシリア難民の命を守るために、現地のレバノン赤十字社と協力して、水タンクやトイレの整備、衛生キットの配布、手洗い指導などを継続しています。



「海外たすけあい」で寄せられる支援は、子どもたちが使う石けんやマスクなどの形で現地に提供されている

Rwanda Report



日本赤十字社
ルワンダ代表部首席代表
吉田拓



ラジオカーで貧困地域を巡回 正しい予防策を安全に普及

日赤は「海外たすけあい」の寄付により2019年12月よりルワンダ南部の災害や貧困に苦しむ5つの村を対象に支援事業を始めました。しかし、今年3月にルワンダで新型コロナウイルスの感染者が出てロックダウンとなり、支援事業も一時停止。緊急帰国した私は日本からオンラインでルワンダ赤十字社と協議を重ね、予定していた貧困地域の経済活性化や水衛生の支援に加えて、三密を避けて住民に正しい情報を届ける「モバイルラジオ」の実施を決定しました。支援事業の対象地域のラジオ普及率は24%。ラジオを持たない人びとも新型コロナウイルスの正しい知識や感染予防策を啓発するため、番組を録音し、大きなスピーカーで放送しながら村々を走行しています。ミュージシャンと制作した音楽を使うなど工夫をこらして地域の人に喜ばれています。手を洗う習慣がなかった人びとに、正しい予防知識を身につけてほしい。日赤はルワンダでの地道な活動を続けています。



大きなスピーカーで放送しながら村を巡回する「モバイルラジオ」

NHK 番組情報

※緊急報道などにより予告なく変更になる場合があります

「きょうからNHK歳末・海外たすけあい」

12月1日(火)午前7時52分～7時55分(NHKラジオ第1)

12月1日(火)午前10時55分～10時58分(NHK総合)ほか

「あなたのやさしさを2020～NHK海外たすけあい～」

12月2日(水)午後11時40分～11時45分(NHK総合)ほか

わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で赤十字の活動に参加する支援者がいます。
全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介しします。



寄付の協力者

練馬白菊幼稚園 副園長

清水ふじえ (しみず・ふじえ)さん

東京都練馬区/64歳

小さな力も集まれば…たすけあいの心は子どもたちにも

毎年12月が近づくと、日赤とNHKが共同で行っている「海外たすけあい募金」に寄付するため、子どもたちは自分で作った募金箱を幼稚園に持ってきます。この貯金箱は、4月の入園時に型紙を配り、それに自分の好きな絵を描いて組み立てたものです。自分で作った募金箱に少しずつお金をためたものですから大事に抱えて持ってきますよ。この活動は、昭和41年にバザーの収益を寄付したのが始まり。最初は歳末たすけあいに、その後、海外たすけあいが始まってからは、歳末と海外の両方に毎年欠かさず寄付しています。園には代々親子で通う方もいて、たすけあいの精神は長年にわたって受け継がれているように思います。

世界には食べるものがなかったり、おもちゃももらえない子がいるんだよと話す、小さい子どもでも、誰かが泣いているのは悲しい、みんなで幸せになろうという気持ちで、寄付に取り組んでくれます。また、ご家族の理解がなければ寄付活動は成り立ちませんが、日本赤十字社という信頼あるところへの寄付ということで、保護者の皆さんにも安心してご協力をいただいています。

例年、年長組の園児たちが渋谷のNHKに寄付金を持っていくのが恒例でしたが、今年は新型コロナウイルスの影響を受け、代表者数人で持参する予定です。さまざまな園の行事が変更されていますが、寄付活動はこれからも続けていきます。

寄付するあなたも赤十字です

日本赤十字社へのご寄付の方法

クレジットカードで寄付



Webサイトからの登録により、クレジットカードでご寄付いただけます。ご寄付の方法は、毎年・毎月・今回のみからお選びいただけます。

身近な窓口から寄付



- 郵便局・銀行の口座振替
- 郵便局・銀行の窓口
- お近くの日本赤十字社窓口

詳しくはこちら→



日本赤十字社 寄付

検索

donate.jrc.or.jp/lp/

3.11 あれから10年を生きて

第9回

東日本大震災の発生から2021年3月で10年。
来年の3月号まで「3.11」から人生を変えた人々の物語を毎月連載します。

子どもの心の「被災」は、今も続いている

いわてこどもケアセンター 副センター長 やぎじゅんこ 八木淳子さん

水が怖くて、雨の日は学校に行けない。

ある小学生の子が、こんな理由で「いわてこどもケアセンター」を受診しました。同施設は私を含めた児童精神科専門職が岩手県全域の子ども達の心のケアを担う医療支援施設です。平成25年に赤十字の海外救援金の寄付で設立されました。

私は児童精神科医として子どものトラウマ治療を専門にしています。大人がどんなにだめでも「雨の日は学校に行けない」「水が怖くて、台風が来ると耳をふさいで震えている」、こうしたトラウマを抱える子が、岩手には少なくありませんでした。その原因は、言うまでもなく、東日本大震災の被災経験です。「いわてこどもケアセンター」の児童精神科の受診数は、開設した平成25年度が延べ2063件だったのが、平成30年度は7900件となり、年を追うごとに増えていきました。でもそれは、氷山の一角です。歯を食いしばって耐えた被災地域の大人たち、その陰には、同じ数だけ苦しみ、そして耐えきれなくなってしまった子どもたちがいます。子どもはその子自身が傷ついているのに、さらに大人の不安や悲しみも吸収します。

私が診察した子は、津波から一緒に逃げた幼稚園の先生が津波で亡くなってしまふ経験をしていました。つないだ手を放さなければ、先生は死ななかつたかもしれない。震災から数年たって小学生になり、避難時の情景を思い出し、「自分のせいで先生が死んだ」という思いにとられるようになりました。大人であれば、それは仕方がなかったことなのだ、と記憶を整理することができるかもしれません。しかし、未発達な脳に焼き付いた記憶を整理することは、小さな子どもには困難でした。

トラウマから来る症状はさまざまな形で出現します。睡眠中に泣き叫んで暴れたり(夜驚症)、不登校になったり、対人関係の問題を抱え、過剰に攻撃

的になるなど…。「子どもはたくましい。傷ついてもすぐに立ち直れる」「小さい頃の記憶は忘れるから大丈夫」と、子どもの心のケアを軽視するむきもありますが、それは誤った見方です。子どもの未発達な脳が受けたダメージは、健全な心身の成長を阻害し、人格形成や社会適応力にも影を落とします。

震災から3日目、停電が復旧し、盛岡市内にある自宅のテレビで津波が家々を押し流す映像を見た時、私の頭に真っ先に思い浮かんだのは「この津波を経験した子、このニュース映像を見ている子、その子たちの心はどうなってしまうのか」でした。すぐにでも心のケアを始めなければならない、この取り組みは長期戦になるだろう…。そう考え、震災後の4月に現地を見て回り、6月から巡回診療を始めました。長期戦になるという予感、あれから10年がたとうとしている今、現実のものになっています。中学生や高校生になってから表出する心の傷。一度はおさまったけれど、数年たって再び症状が出ることもあります。心の傷に苦しむ子たちにとって、そして治療を行う私たちにとっても、そこに行けば大丈夫、という不変の場所があることが、いかに重要か。赤十字のサポートで建てられた「いわてこどもケアセンター」は、これからの被災地の子どもたちの心を守るホームであり続けるでしょう。そして私も、この場所で子どもたちの心の育ちを見守り続けます。



八木医師のメッセージは日赤公式YouTubeでもご覧いただけます



埼玉県

追悼式と史料展示で語り継ぐ
戦時救護班の貴重な体験

11月4日、日赤埼玉県支部は「第63回殉職救護員追悼式」を挙行了しました。また同日、戦後75年「戦時救護班史料展」を開催(12月4日まで)。史料展では、実際に戦地に行かれた救護班員(従軍看護婦)のインタビュー映像や、支部で所蔵している当時の文書や救護班員が身に着けていた装備品や腕章などを公開、平和の大切さを伝える史料展となりました。



救護班員のインタビュー映像は埼玉県支部ホームページでも公開中

山梨県

災害時に奉仕団はどう動く？
感染予防を徹底して訓練実施

日赤山梨県支部では「第42回赤十字奉仕団員等災害救護訓練」を10月に開催。今年は、多発する豪雨災害を想定して「避難所設営」を実施、密を避け、参加人数を140人まで(昨年は450人参加)に制限し、訓練内容にもフェイスシールドや防護ガウンの作製を盛り込むなど、この社会状況で災害時の赤十字ボランティアはどのように活動するか、知識と技術を磨きました。



避難所に必要な段ボールベッドや簡易トイレの組み立ても行った

福井県

世界に誇る人道ミュージアム
待望のリニューアルオープン

11月3日、福井県の「人道の港 敦賀ムゼウム」がリニューアルオープンしました。敦賀港は、1920年代に763人のポーランド孤児を、1940年代にナチス・ドイツなどの迫害から逃れ外交官杉原千蔵の「命のビザ」を持ったユダヤ難民を受け入れた港。同施設には、それらの受け入れ事業や当時の日赤による人道活動を紹介する展示などがあり、その歴史と共に人道の本質を伝えていきます。



アニメーションを用いるなど人道のエピソードを分かりやすく紹介

大阪府

西成・あいりん地区での
手作りマスク寄贈の奉仕活動

日赤大阪府支部の裁縫ボランティアは大阪市西成区の「あいりん手作りマスクプロジェクト」に賛同し、マスクを寄贈する活動を継続しています。10月22日、裁縫ボランティアのもとを「いつも丁寧に縫製されたマスクに感謝している。直接お礼を伝えたい」と、山王訪問看護ステーション(西成区)の代表者が訪問。作りたてのマスク100枚がその場で贈呈されました。



裁縫奉仕は、あいりん地区の人々の心を支える活動となった

常任理事会開催報告

令和2年11月27日、令和2年度第5回の常任理事会が開催されました。
今回の常任理事会は、付議事項はありませんでしたが、令和2年度上半期報告、日本赤十字社医療センター等行幸啓(オンライン)、新型コロナウイルス感染症拡大にかかる対応状況、令和2年度「NHK海外たすけあい」キャンペーンの実施、予算の補正にかかる社長専決事項について、それぞれ報告しました。
※オンラインによる開催となりました。

理事会開催報告

令和2年度第3回理事会に下記の事項を付議いたしました。新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、文書審議をもって開催に代え、その結果は下記のとおりです。
記
1 独立行政法人 福祉医療機構(WAM)からの運転資金長期借入金(個別借入)について(日本赤十字社医療センター)
2 金融機関からの運転資金長期借入金の一括借入について(本社)
審議の結果、原案のとおり議決されました。

長野県

赤十字ゆかりの地の小学校で
コロナに負けない心づくり

日赤創設者の一人・大給恒が築城した龍岡城五稜郭の中に建つ佐久市立田口小学校。熱心に青少年赤十字の指導を行う同校では、コロナ禍で修学旅行を利用した「大給恒研究」が中止になったことから赤十字精神を学ぶ機会として「コロナに負けない心づくり」の授業を実施しました。同校は令和4年度末に統合され廃校となりますが、最後まで赤十字の心の授業は続きます。



コロナの授業の後には、医療従事者へ感謝の言葉を述べた

全国

録音図書を作成する「音訳奉仕」、点字に翻訳する「点訳奉仕」
全ての人が等しく同じ情報を得られて、楽しめるように...

札幌市音訳赤十字奉仕団の佐藤洋子さんが「DAISY編集奉仕者 全国表彰」を受賞しました。「DAISY」とは、通常の書物を読むことが困難な方のための国際標準規格のこと。文字のデジタル音声化が進む昨今ですが、視覚障害者が「普通に読書を楽しむ」環境としては、まだまだ十分ではありません。同賞は厚生労働省・文部科学省などが後援し、今年で50周年目となる歴史ある賞。佐藤さんは聞き手の立場や図書の使用目的に合わせた朗読・編集に長年取り組み、その功績を評価されました。

山形県では、山形点訳赤十字奉仕団が「新型コロナウイルス感染症ガイド」を点字に翻訳。およそ1週間かけて作業し、同奉仕団の岸道子委員長は「コロナによる差別や偏見にフォーカスしたガイドなので、視覚障害のあるなしに関わらず全ての人に届けたい」と思いを語りました。点訳された同ガイドは山形県立点字図書館で公開されています。



朗読録音奉仕で全国に二人しか選ばれない栄誉を手にした佐藤さん



点訳されたガイドは誰でも自由に閲覧できる

広島県

ハートラ電車に会いにきてね!
新デザインの路面電車が運行

日赤広島県支部は、広島電鉄が運行している「赤十字ラッピング電車」をリニューアルしました。このラッピング車両は、広島駅から広島宮島駅までの約20km間を1日に6~7往復しています。新車両にはさまざまな赤十字コスチュームをまとったハートラちゃん、献血推進キャラクターのけんけつちゃん、その仲間たちが描かれ、広島の人々の目を楽しませています。



県支部、血液センター、日赤広島看護大学と共同で2007年から運行

全国

こんな時代だからこそ、赤十字の仲間!
各地で新しい赤十字奉仕団が誕生しています

全国の日赤支部で活躍している赤十字奉仕団(ボランティア)。地域の人々の支え合いの精神が育ち、新たな奉仕団が結成されています。
三重県に新しく誕生したのは孤野町地域奉仕団。地域を支える赤十字奉仕団を作ろうと集まった署名は274人。そのうち50人ほどが代表して参加した結成式では、奉仕団の旗とワッペン、炊き出し釜やテントを三重県支部が授与。奉仕団の北岡美智子委員長は「災害支援や社会福祉など、住民に信頼されるボランティア団体として活動していきたい」と語りました。
兵庫県では民間企業のボランティア活動が発展する形で新しい奉仕団が生まれています。県内の但陽信用金庫は阪神・淡路大震災の発生直後から25年間にわたって高齢者や障害者の見守りや移動支援といったボランティア活動を続けてきましたが、その実績をベースに「たんよう赤十字奉仕団」を結成。兵庫県支部から団旗が授与されました。



赤十字の活動に賛同する有志の人々が地域奉仕団を結成



活動は神戸の震災直後に独居高齢者らの見守りからスタートした

「赤十字を応援！」プレゼントA 上白石萌音さん 女優

サイン入り
ステンレス製
携帯用まほうびん



私にもできることから、始めていきます

「ひとのために」という思いを形にして、長期的な支援や貢献を続けていってほしい赤十字の方々を心から尊敬します。
新型コロナウイルス感染症対策により、舞台やイベントなどの開催が制限され、催し物の中止や延期が決まるたびに楽しみが減っていくのはつらいことでした。しかし、そんななかでも幕が上がったり、新たな取り組みが生まれたりして、うれしい気持ちもたくさんいただけたと思います。どんな状況であれ、作品を受け取っていただくことが本当にありがたいと感じる日々です。自分にも何かできることはないかと、まずは身近なところから心を配ることから始めていきたいです。
みなさまに少しでも心身の安らぐ時間があることを祈ります。きっとこれから楽しいことが待っていると信じて、共に乗り越えましょう。

かみしらいし・もね◎1998年1月27日生まれ。鹿児島県出身。映画・ドラマ・CMだけでなく、ナレーションや歌唱の分野でも活動。2021年1月には、TBS火曜ドラマ「オー!マイ・ボス!恋は別冊で」に主演。



「赤十字を応援！」プレゼントB パートナー企業紹介 vol.9 有限会社 湖月庵

アイデアあふれる和菓子の販売を通して、苦しんでいる人を救う赤十字を応援!



「ソーシャルディスタンスを楽しめるように」と、SL模型を使ってお会計をするなど、工夫をこらした店舗

茨城県のJR下館駅近くに店を構える湖月庵は、東日本大震災で被災した経験もあることから、震災直後に、そしてその後も水害などで尽力する日赤の姿を見て「長期的に支援できる仕組みが必要」と考え、「寄付つき商品」の販売を通して日赤を支援しています。コロナ禍の緊急事態宣言下では店舗の閉店をも検討する中で、血液が不足している現状を知り、自分たちができる支援を行いたいと11月から茨城県内献血ルームで献血協力者への商品提供を開始。献血協力者への感謝も込め、湖月庵の看板商品、北海道十勝産の大粒小豆をたっぷり詰めた「館中」を1000個用意しました。
湖月庵のこだわりの和菓子は、全国の菓子コンテストでも数々の賞を受賞。その上さらに、コロナ禍でも「癒やし」と元気を届けようと、密を避けて楽しんでもらえるSL鉄道模型を使ったお会計の方法を考えるなど、さまざまなアイデアを出し、人びとに喜んでもらえる企業努力を重ねています。

館最中本舗 湖月庵

きぬのまゆ玉沢尻抹茶
(抹茶5個・白4個入)



10
名さまに

いくつもの賞を受賞した銘菓。茨城のブランド菓「奥久慈餅」を使用した黄味餡をホワイトチョコで包んだ絹白と、さしま抹茶の香りがチョコに溶け込んだ抹茶味。

上記プレゼント希望者は、右記WEBサイトにてご応募ください。



インターネット
アクセス

赤十字ニュース プレゼント 検索
www.jrc.or.jp/publication/news/

ここから
応募
できます



上記プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS12月号を手にした場所(例/献血ルーム) ⑥12月号に関するご意見・ご感想

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 広報課 赤十字 NEWS12月号プレゼント係
FAX / 03-6679-0785 WEB応募/右の2次元バーコードからご応募ください。
12月28日(月)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

こちらから
応募
できます



WORLD NEWS

日赤 大塚義治社長からのメッセージ

「核兵器禁止条約」、いよいよ発効 国連を動かした世界の赤十字運動

2017年7月7日に国連で採択された核兵器禁止条約。その発効には50カ国以上の批准*が必要でした。10月25日、ついに50カ国目となるホンジュラスが条約を批准し、来年1月に発効することになりました。

* 条約参加にかかる各国国会での承認手続き



原爆により発生したキノコ雲



日本赤十字社 社長 大塚義治

読者の皆さんの中には、災害救護、医療事業、血液事業などで知られる日本赤十字社が核兵器問題にどう関わっているのか、と疑問に思う方もいらっしゃるでしょう。実は日赤は広島・長崎への原爆投下以降一貫して核兵器の廃絶を訴えてきました。

1945年8月6日。広島に投下された原爆の爆心地から1.5kmほどに位置する広島の赤十字

病院は、壊滅的な被害を受けたものの奇跡的に建物の外郭だけを残し、白地に赤十字の旗を掲げて、無数の被爆者を収容し、看護にあたりました。また長崎でも同じように赤十字の救護班が被爆地に駆け付け、被爆者の救護活動に従事しました。日赤と核兵器の関係はまさにこの瞬間にさかのぼることができます。

核兵器の被害に遭ったのは日本だけではありません。ヒロシマ・ナガサキの後にも2000回以上の核実験が行われ、実験場とされた国々の人々が被ばくしたほか、日本においては1954年、マグロ漁船の第5福竜丸が被ばくし、大きな社会問題となりました。当時の島津忠承日赤社長は手記の中に次のように記しています。「私の頭の中には、他のすべての国が核兵器の恐怖を叫ぶことに、ためらいを感じたり、あきたり、反対したりしたとしても、日本だけは、それを叫び続けなければならないし、日本だけがそれを叫ぶ権利がある、という思いが、いつもあった。」(島津忠承著『人道の旗のもとに～日赤とともに三十五年～』講談社、昭和40年)

こうした思いは日本のみならず世界の赤十字運動においても脈々と受け継がれてきました。2011年の赤十字の国際会議で採択された決議「核兵器廃絶に向けての歩み」では、①現代の核兵器が使用された場合、その犠牲者、被害に人道

的に対応することは不可能であること、②核兵器の使用が国際人道法の定める理念と両立しないことという2つの理由から、核兵器の廃絶を訴えました。この決議の採択に至った背景には、当時、国際赤十字・赤新月社連盟の会長でもあった近衛忠輝社長(現・日赤名誉社長)の強いリーダーシップもありました。決議のメッセージはヒロシマ・ナガサキの被爆の経験が連続と受け継がれてきた証しであるとも言えます。

核兵器禁止条約の前文では、これまでの核兵器廃絶をめぐる議論の率先について赤十字の貢献が確認されました。しかし、条約の発効自体はゴールではありません。核兵器の廃絶に向けた国際的な議論の率先も重要ですが、同時に、ヒロシマ・ナガサキの経験を着実に受け止め、次世代に継承していく地道な活動も引き続き求められています。その点において、日赤がなしているユニークな貢献があると考えています。



2015年、広島長崎被爆70年。近衛前社長、ペーター・マウラーICRC総裁が被爆地を訪問し核兵器廃絶への誓いを立てた

数字で見えた!

世界で生かされる皆さまのご支援

世界中の災害や紛争から、人々の命と健康を守る日赤の国際活動。皆さまの寄付がどのように世界で役立てられているのかを、数字でわかりやすくお伝えします。

フィリピンの2地域で、正しい手洗いや歯磨きの習慣を学んだ人数

4911人

(オーロラ州とヌエヴァ・ヴィスカヤ州における2014年10月～現在までの実績)



手洗いの建設にとどまらず、正しい衛生習慣の普及に尽力している(撮影2019年)

日赤は2014年から、医療機関へのアクセスが難しいフィリピンの山岳部の2つの州で、「住民が自分たちの手で健康を守ること」を目指し、支援を続けてきました。村の学校に手洗い場を設置して、石けんや歯ブラシ等が入った衛生キットを配布。さらに、地域の赤十字ボランティアや学校の先生たちが主体となって、適切な手洗いや衛生習慣を普及させ、病気を未然に防ぐ取り組みを進めています。手洗い指導を行うフィリピン赤十字社の職員は、「子どもたちの笑顔と瞳に、手洗い習慣を身につけた安心や喜びを感じ、私たちもうれしいです」と語りました。

手洗い習慣は新型コロナウイルス感染症だけでなく他の疾病対策にも重要。新たな衛生習慣で人々の命と健康を守るだけでなく、村人たちが皆で学び、活動することの楽しさも届けることができました。